



部門HP
地域と歩む歴史学へ

須賀川市立博物館（令和7年分まで） 共同研究成果パネル展

開催期間 令和7年12月17日(水)から
令和8年 1月30日(金)まで
展示場所 須賀川市役所1階玄関ホール
(みんなのスクエア南側)

展示内容

(1) 研究成果

FUMIN OMORI
ニュースレター「史の杜」

別冊「史の杜」 各抜粹

(2) 開催報告

(3) 投稿(コラム)

主催 須賀川市立博物館
(お問い合わせ番号 75-3239)

共催
東北大学東北アジア研究センター
上廣歴史資料学研究部門



江戸時代の須賀川が「自治都市」と呼ばれるきっかけは、白河藩が行政運営を町内の「郷士」たちに委任したことです。天明3年(1783)11月、白河藩は内藤平左衛門に宛てた文書の冒頭で「須賀川町之儀、御城下を隔居候事故歎、役人共取計も行届兼候哉(須賀川町は、白河の城下町から離れているためか、武士たちの対処も行き届かないのか)」と記しています【内藤家文書2「布達」】。当時は凶作などの影響もあるので、地元住民の郷士たちに町政をしっかりとやってほしいことを命じています。

郷士の任命は、加藤明成(会津)領時代(寛永8-1631~寛永20-1643)にさかのぼり、このころに須賀川の郷士(兼町年寄)は、佐藤小平太・相楽孫右衛門・矢内久左衛門・相楽治左衛門の4名でした【東北大学図書館所蔵「加藤家分譲帳」】。



須賀川城下町地図(近世)

須賀川市内藤家文書テーマ展

本誌は、2022年10月25日(火)から11月27日(日)開催の須賀川市立博物館令和4年度テーマ展「内藤家文書にみる須賀川の江戸時代」(企画・制作:須賀川市立博物館、東北大学東北アジア研究センター上廣歴史資料学研究部門)をもとに作成しています。掲載した写真は、いずれも須賀川市立博物館所蔵です。